【調査・実践報告】

大学の保育実習室を活用した子育て支援活動

田口　鉄久・藤村　京子

1．子育て支援活動への取り組み

平成22年10月，教育学部実験・実習棟の１階に保育実習室を設置した（図１）．大きさは通常の保育室を一回り大きくした程度であるが，乳幼児用トイレ，テラス，手洗い場，小さな園庭（ログハウス，砂場，滑り台）（図２），事務室兼保育準備室，倉庫などを備える．

保育実習室は保育関連の授業(注1)に活用する．それ以外に，学生による模擬保育などの準備，今回取り上げる子育て支援活動「ぴよぴよ」，幼児教育研究部会の諸活動，大学祭での催しなどに利用する．

（図１）　保育実習室

（図２）　小さな園庭

平成22年度は保育実習室を活用して12月と１月にそれぞれ１回ふれあい会「ぴよぴよ」を企画した．近隣の幼稚園･保育所などに案内を配布し，参加を呼びかけた．ふれあい遊びと壁面飾り制作は次年度幼児教育ゼミへの所属を検討

する２年生が担当した．参加者は12月23組，１月15組であった．

平成23年度は県の子育て支援に係る助成(注2)が得られたこともあって，年間28回の子育て支援活動（ぴよぴよ）を計画，実施した（うち１回は台風のため中止）．

実施責任者は幼児教育教員（田口）と実習助手（藤村）であるが，本年度は有資格の子育て支援担当者（土田）の配置をした(注3)．子育て支援活動は授業実施週の水曜日，10時から11時30分に行った．支援に当たるスタッフは原則として幼児教育ゼミの４年生と希望学生（計19名）である．いずれも自主的に協力者として申し出た学生である．毎回６人の学生がチームを組んで担当した．うち３回は幼児教育ゼミ３年生（18名）が６人ずつチームを組んで「教育研究演習」で担当した（表１）．

別途教員８名(注4)の協力を得て順次子育て支援の場で，専門領域に関した相談も受けた（全16回，うち１回は台風のため中止）．

（表１）　実施日ならびに担当表

回	月	日	内　容	教員		月	日	内　容	教員
	4	13				9	28		
①		20	❶②　学生企画		⑭	10	5	❶②　学生企画	吉田明
②		27	❷③　学生企画	長尾	⑮		12	❷③　学生企画	片山
③	5	11	❸④　学生企画		⑯		19	❸④　学生企画	吉田直
④		18	❹⑤　学生企画	萩	⑰		26	❹⑤　学生企画	吉田明
⑤		25	❺⑥　学生企画		⑱	11	2	❺⑥　学生企画	田口
⑥	6	1	❻①　学生企画	檜垣	⑲		9	❻①　学生企画	片山
⑦		8	人形劇等の鑑賞		⑳		16	ふれあい遊び会	
⑧		15	3Aグループ企画	檜垣	㉑		30	❶②　学生企画	野々垣
⑨		22	3Bグループ企画		㉒	12	7	❷③　学生企画	
⑩		29	3Cグループ企画	萩	㉓		14	❸④クリスマス会	
⑪	7	6	❶❷　七夕の活動		㉔	1	11	❹⑤　学生企画	
⑫		13	❸❹　水遊び企画	田口	㉕		18	❺⑥　学生企画	長尾
休		20	❺❻　水遊び企画	吉田直	㉖		25	❻①　学生企画	
⑬		27	子育て支援担当	野々垣	㉗	2	1	子育て支援担当	

※　内容欄に表記されている❶②は４年ゼミ生の担当グループを示す．

※　⑦⑳回の企画（２回）については外部から劇団，講師等を招請

※　教員欄は子育て相談担当として協力を得た教員である．

２．子育て支援活動の目的と実際

（１）活動の目的

子育て支援活動は，①子どもの遊びの場，②保護者の交流・子育て相談の場，③学生の実践的な学びの場，④教員の研究活動の場，⑤大学の機能を活用した地域貢献活動を目的とした．中でも重視するのは③学生の実践的な学びを促すことである．

（２）活動の概要

９時過ぎから準備に入り，駐車場案内，受付を行う．10時からの１時間は親子で自由に遊ぶ．６人の担当学生は適宜乳幼児やその保護者とふれあい，乳幼児の実態･保護者の想いから現実の姿を学ぶ．季節・行事に関連した取り組み（例：人形劇団公演，七夕制作，水遊び，夏祭り，ベビーマッサージ，クリスマス会など）も行う．活動の概要は以下の表の通りである（表２）．

（表２）活動のタイムスケジュール（基本展開）

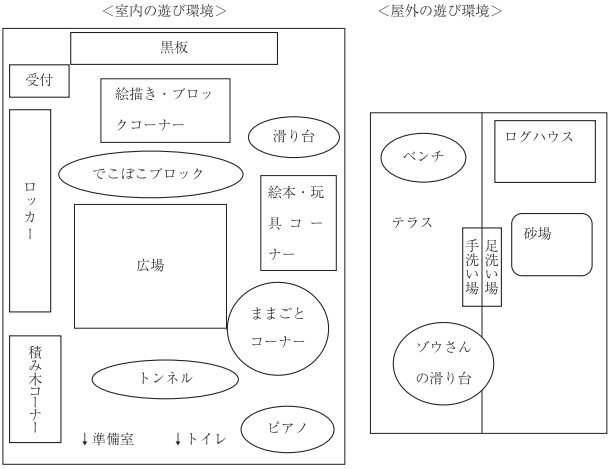
時　間	実　施　内　容
9:15～10:00	保育実習室準備（前日も含め），駐車場案内，受付
10:00～10:50	順次活動開始，親子・支援学生による自由な遊び （描画・制作，水遊び等含む） 並行して教員による「子育て相談」の実施
10:50～11:00	片付け
11:00～11:25	支援学生による親子ふれあい遊びの指導 （例：季節のうた，手遊び，ふれあい遊び，リズム遊び，わらべ歌遊び，ペープサート，パネルシアター，人形劇など２～３組み合わせて実施）
11:25～11:30	担当教員からの「子育てのポイント」の話または「感想」
11:30	終了，解散
11:30～11:50	片付け
11:50～12:10	反省会

教員は保護者から子育てなどの相談があれば随時対応する．11時からの約20分は３人の主担当学生が中心になって，全体に対して親子ふれあい遊び等の活動を指導する（図３）．活動内容は学生が事前に指導計画を立案して指導教員のチェックを受けたものである．活動終了時には相談担当教員が保護者に対して５分程度のコメントを行なう．担当学生は片付け終了後約20分，スタッフと共に反省会を行なう．

（図３）　親子ふれあい遊び指導の様子（左３年生，右４年生）

（３）保育実習室等の環境

室内，屋外の施設概要ならびに遊び環境は下図の通りである（図４）．本年度授乳コーナー，ロッカー，おむつ交換台，教材収納棚，ログハウス，砂場，



（図４）　保育実習室ならびに屋外の環境

滑り台，安全クッション，小型簡易プール等を設置し，小規模保育所並みの施設備品を整えた．

（4）参加実態

①　子どもと保護者

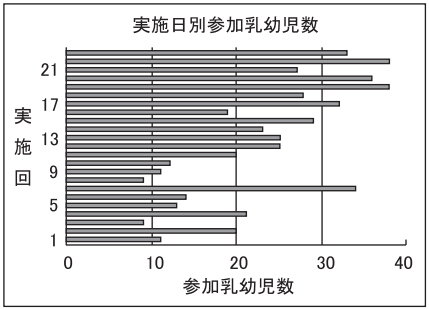
12月14日までの23回で，子ども延べ527人，保護者延べ463人（一回平均，子ども22.9人，保護者20.1人）の利用があった．各回の参加者数は（表３）の通りである．秋学期は親子合わせて50人以上が参加する日も見られるようになった．最少は16名，最多は71名であった．参加者が多い場合，室内だけで活動するのは窮屈な感じがする．おおむね20組，40人程度が適切である．

利用者は伊勢市居住の０・１・２歳児とその母親が中心である．そのうちの約半数が継続参加，残りは随時参加とみなすことができる．

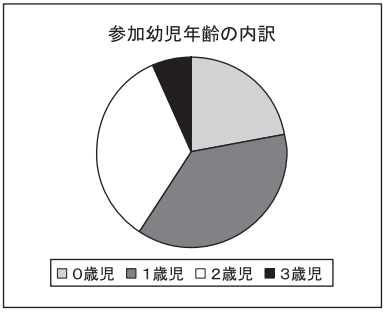
（表３）　実施日別参加人数内訳表

回	日	０歳	１歳	２歳	３歳	幼児計	保護者	総計
1	4/20	1	4	5	1	11	8	19
2	4/27	2	10	7	1	20	18	38
3	5/11	1	4	4	0	9	7	16
4	5/18	6	9	6	0	21	19	40
5	5/25	3	6	4	0	13	11	24
6	6/ 1	5	4	5	0	14	12	26
7	6/ 8	4	13	17	0	34	29	63
8	6/15	3	1	5	0	9	9	18
9	6/22	2	3	6	0	11	10	21
10	6/29	4	3	4	1	12	11	23
11	7/ 6	5	6	7	2	20	18	38
12	7/13	6	5	11	3	25	21	46
13	7/27	7	7	10	1	25	22	47
14	10/ 5	5	10	3	5	23	20	43
15	10/12	6	10	9	4	29	25	54
16	10/19	2	8	7	2	19	15	34
17	10/26	10	10	11	1	32	27	59
18	11/ 2	7	14	6	1	28	26	54
19	11/ 9	6	15	15	2	38	31	69
20	11/16	14	9	12	1	36	35	71
21	11/30	5	8	10	4	27	24	51
22	12/ 7	6	17	10	5	38	33	71
23	12/14	7	17	8	1	33	32	65
	合計	117	193	182	35	527	463	990

実施日別参加幼児数の内訳，参加幼児年齢の内訳をグラフで表すと以下の通りである（図４，図５）.



（図４）　実施日別参加幼児数の内訳



（図５）　参加幼児年齢の内訳

②　学生と教員

保育支援に当たった３・４年生は37人（延べ約140人），子育て支援の様子を参観した教育基礎演習受講２年生は152人，観察記録作成に当たった教育研究演習受講３年生は12人，卒業研究のために観察･聞き取りを行った４年生は５人であった.

なお相談にあたった教員は８人（計15回）であった.

（４）実施内容

10時から11時の間，子どもは親子でまたは参加幼児と共に好きな遊具で自由に遊ぶ．気候の良いときにはテラス，小さな庭で遊ぶこともある．学生はそれらの遊びを支援する.

片づけを終えた後，約20分担当学生が親子ふれあい遊びを指導する．以下は学生が実践した親子ふれあい遊びの一覧である（表４）.「４年生３名」となっているのは当日の主担当学生数を示す．実際には６名以上の学生が関わっている.

（表４）親子ふれあい遊び一覧

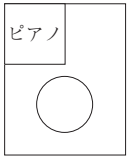
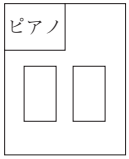
実施日，担当学生	ふれあい遊びの内容
第１回　４月20日（水） 担当：４年生３名	手遊び「ゆびがいっぽん」 ふれあい遊び「ぞうさんのサンポ」,「だんごむし」
第２回　４月27日（水） 担当：４年生３名	絵本「あっぷっぷ」中川ひろたか作，村上康成絵 ふれあい遊び「がたがたバス」「グーパーパチパチ」
第３回　５月11日（水） 担当：４年生３名	歌遊び「どこでしょう」 ペープサート「ごあいさつあそび」
第４回　５月18日（水） 担当：４年生３名	ふれあい遊び「バスごっこ」 ペープサート「にらめっこしましょ」
第５回　５月25日（水） 担当：４年生３名	ふれあい遊び「かたつむり」 制作「かたつむり作り」
第６回　６月１日（水） 担当：４年生３名	ペープサート「いないいないばあ」 スカーフ，不織布を使ったいないいないばあ遊び
第７回　６月８日（水）	人形劇団「どむならん」による人形劇鑑賞 (「ヤドカリのボーヤ」「でんでんむし」) ※学生によるふれあい遊びは休み
第８回　６月15日（水） 担当：３年生６名	パネルシアター「あめふりくまのこ」 ふれあいあそび「あめのひくまのこ」
第９回　６月22日（水） 担当：３年生６名	ふれあいあそび「もりのくまさん」
第10回　６月29日（水） 担当：３年生６名	手遊び「パッパッパ」 ふれあい遊び「バスごっこ」
第11回　７月６日（水） 担当：４年生６名	ふれあい遊び「ぱん！ぱん！ぱん！」 ふれあい遊び「グーパーパチパチ」 ふれあい遊び「おやすみなさい」
第12回　７月13日（水） 担当：４年生６名	ふれあい遊び「さかながはねて」 うちわシアター「フライパンで何ができるかな？」
第13回　７月27日（水） 担当：４年生６名	絵本「はなび」
第14回　10月５日（水） 担当：４年生３名	制作遊び「花火の壁面をつくろう」 手遊び「パンダ・うさぎ・コアラ」 体操遊び「フリフリロックンロール」

第15回　10月12日（水） 担当：４年生３名	手遊び「グーパーパチパチ」 歌遊び「とことこ」 ペープサート「ちょうちょ」
第16回　10月19日（水） 担当：４年生３名	手遊び「グーパーパチパチ」 制作あそび「どんぐりを作ろう」
第17回　10月26日（水） 担当：４年生３名	手遊び「グーパーパチパチ」 「やきいもグーチーパー」 リズム遊び「ハロウィンチャチャチャ」 制作「ハロウィンのかばん作り」
第18回　11月２日（水） 担当：４年生３名	手遊び「グーパーパチパチ」 制作「楽器作り」 歌「おもちゃのチャチャチャ」
第19回　11月９日（水） 担当：４年生３名	手遊び「グーパーパチパチ」 リズム遊び「バスにのって」 制作「バスに乗ってでかけよう（似顔絵作り）」
第20回　11月16日（水） 【助産師による指導】	リズム遊び「さんぽ」 エプロンシアター「カレーを作ろう」 ミニシアター「おはながわらった」 ベビーマッサージ
【学生によるふれあい遊び】 担当：４年生１名　担当者１名	手遊び「グーパーパチパチ」 リズム遊び「おなかへったかな？」
第21回　11月30日（水） 担当：４年生３名	手遊び「グーパーパチパチ」 ミニシアター「ピヨピヨたまご」 歌遊び「まあるいたまご」 体操遊び「うさぎさんのダンス」
第22回　12月７日（水） 担当：４年生３名	手遊び「とんとんとんとん　ひげじいさん」 制作「クリスマスツリーを作ろう」 歌「あわてんぼうのサンタクロース」
第23回　12月14日（水） 【クリスマス会】 担当：４年生３名	手遊び「グーパーパチパチ」 ハンドベル演奏「ジングルベル」「きよしこの夜」 「赤鼻のトナカイ」 リズム遊び「ハンドベルの演奏に合わせてたまごマラカスを鳴らそう」 サンタクロース・トナカイがやってきた!!プレゼント配布 歌「あわてんぼうのサンタクロース」

当日に向けて担当学生は指導計画案を立案し，教員に提出して確認を得る．併せてふれあい遊びに必要な教材作りや環境構成を行う．指導計画案は充実した保育を実施するうえで必要なものであると同時に，特に子育て支援活動においては担当学生が協働して実践する上で重要な役割を果たす．以下に３回分を抜粋して紹介する（表５，表６，表７）．

（表５）　指導計画案（１）

日　時	平成23年　５月25日（水）	対象児	0，1，2歳児
氏　名	角○結○，西○未○，橋○幸○		
中心となる活動	・ふれあい遊び「かたつむり」 ・制作「かたつむり作り」		
活動のねらい	・親子でふれあうことを楽しむ． ・保護者に手助けをしてもらいながらつくることを楽しむ．		

時 間	準備および環境構成	子どもの活動	保育者（学生）の援助・留意点
11:00		○ ふれあい遊び「かたつむり」をする． ・学生が紙皿で作ったかたつむりをみる．	・ふれあい遊びをすることを伝え，ピアノの近くに集まるよう声をかける． ・雨の日になるとかたつむりが現れることを伝え，紙皿で作ったかたつむりを出し，イメージを膨らませることができるような言葉がけをする．
		・学生の手本を見ながら「かたつむり」の曲に合わせて親子でふれあう．	・ピアノを弾く学生は，親子の様子をみながら速さなどを調整する． ・手本となる学生は，明るい表情と大きな動きで手本をみせるよう心がけ，楽しい雰囲気でできるよう配慮する．
11:10	・机，いすを出し材料を配っておく． ・画用紙を丸く切っておき，紙皿はある程度のところまで作っておく．	○ 制作あそびをする． ・作り方の説明を聞く． ・かたつむりの殻に丸シールを張ったり，クレヨンで模様を描いたりする．	・次は，先ほど見た紙皿かたつむりを作ることを伝え，期待を持てるように声をかける． ・作り方を簡単に説明し，机ごとに様子を見守りサポートしていく． ・丸シールは何色か用意し，はがしやすいよう１つ１つに分けておく．

（以下割愛）

（表６）　指導計画案（２）

日　時	平成23年６月１日（水）	対象児	0，1，2歳児
氏　名	丸〇裕〇，矢〇千〇，山〇茜〇		
中心となる活動	いないいないばあ　あそび		
活動のねらい	保護者や保育者とふれあいながら，いないいないばあを楽しむ		

時 間	準備および環境構成	子どもの活動	保育者（学生）の援助・留意点
11:00		○ ペープサート「いないいないばあ」を見る． ・音楽に合わせて一緒にいないいないばあをする．	・ペープサートをすることを伝え，ピアノの近くに集まるよう声をかける． ・二人以上の子どもをつれてきている保護者には声をかけて子どもを一人預かるようにして，子どもと大人が一対一で座るようにする． ・ピアノを弾く学生は，親子の様子を見ながら速さなどを調節する． ・ペープサートを行う学生は，子どもの表情をみながら明るく楽しそうな雰囲気で進めるようにする．
11:10	・ネッカチーフを準備する．	○ ネッカチーフを使っていないいないばあ遊びを楽しむ．	・ネッカチーフを配り，広げたり，子どもにかけたりして慣れさせるようにする． ・音楽に合わせて，前で学生が見本を見せながら進める． ・「いないいない･･･」で時間を置くなど，少しずつパターンをかえて繰り返し行う．
11:20	・不織布で作った一枚の大きな布 ※布は保護者と学生が持つ．	○ 不織布で作った一枚の大きな布の下に入り，みんなでいないいないばあ遊びを楽しむ．	・怖がる子どもがいる場合には，保護者の方にも一緒に入ってもらうなどして楽しめるようにする． ・最後は一人ひとりが保護者のもとへ戻れるように声をかける．

（表７）　指導計画案（３）

日　時	平成23年７月７日（水）	対象児	０・１・２歳児
氏　名	赤○聡○，板○一○，伊○早○，糸○紗○，井○夏○，今○藍○		
中心となる活動	ふれあいあそび		
活動のねらい	身体を十分に動かし，ふれあい遊びを楽しむ		

時 間	準備および環境構成	子どもの活動	保育者（学生）の援助・留意点
11:00 11:25		○ふれあい遊びをする．「ぱん！ぱん！ぱん！」をして遊ぶ． ○「グーパーパチパチ」をして遊ぶ． ○「おやすみさい」をゆったりとした気持ちで楽しむ．	・保護者と子どもに集まるよう声をかける．向かい合って座ってもらうようにいう． ・保育者は，保護者，子どもによく見える位置で行うようにする． ・前で見本を見せながら子どもがまねして一緒にできるように声をかける． ・保護者・子どもにわかりやすいように，はっきり話し，ゆっくり大きく動作をする． ・「上手にできたね」などとほめ，子どもを認めるように声をかける． ・動作は大きく，楽しんで行う．子どもが楽しめるように繰り返して行い，身体の部位を変える． ・ゆったりとした気持ちで活動ができるようにゆっくりとした速さで行う． ・保護者に，歌に合わせて子どもの指を触ってもらうように伝える． ・子どもと目を合わせて遊ぶように伝え，子どもが安心して活動できるようにする． ・家に帰ってからも，今日のふれあい遊びを使って，親子が楽しく遊ぶことができるように声をかける．

５．取り組み後の反省とまとめ

（１）春学期の取り組み

春学期は13回の取り組みを行った．以下は，反省会で学生が述べた内容である．

第１回　平成23年４月20日（水）

・一部の子どもの所へ学生がかたまってしまい，支援に偏りが出来てしまった．次回以降は，周りをよくみてすべての親子のところへ平等に学生が関わるように配慮しようと思う．
・普段あまり子どもと接する機会がないので，どう接したらよいか戸惑った．
・ふれあい遊びをする中で，緊張してうまく声かけができなかった．

第２回　平成23年４月27日（水）

・前回の反省を生かし，周りに支援者がいない親子が出ないよう配慮することができた．
・親子が向き合う形でふれあい遊びをしたので，普段子どもと向き合う形で遊ぶことが少ない保護者にとっては新鮮であったのではないかと思う．
・普段保護者と話す機会がないので，どう会話をしてよいかわからず戸惑った．
・人形を使って見本を見せていたが，人形が小さく子どもの動きとは異なるため，伝えにくかった．

第３回　平成23年５月11日（水）

・参加者が少なかったため，一人ひとりの子どもとしっかりかかわることができた．
・歌遊び「どこでしょう？」の中で，「○○（子どもの名前）ちゃん，○○（子どもの名前）ちゃん，どこでしょう？」と呼びかけると，自分の名前に反応する様子が見られた．子どもに名前で呼びかけることは大事なことだと感じた．
・ペープサート遊びの時に，ペープサートに興味を持って触りにくる子どもがいて，子どもの触りたい気持ちを認めてあげたいが，全体で活動しているため，活動をとめることができないので，どこまでその気持ちに応えてあげたらよいか分からず戸惑った．

第４回　平成23年５月18日（水）

・0.1歳児の参加が多く，個人によって発達の違いが大きかったため，一斉活動をするのが大変だった．
・ふれあい遊びの最中に，ほかの遊びがしたくて歩き回ってしまう子どもにどのように対応したらよいか迷った．

・「にらめっこ」では，保護者の顔をみたり自分の顔を作ったりして楽しそうに笑う姿がみられてうれしかった.
・自分の使いたいおもちゃを友達が使っているときに，おもちゃを奪い喧嘩をする姿がみられたため，「順番に使おうね」と声をかけたり，「一緒に遊ぼう」と声をかけたりしたが，なかなか納得してくれず，どう声をかけるべきかと悩んだ.

第５回　平成23年５月25日（水）
・ふれあい遊びの時にピアノを弾いていると，ピアノが気になって触りにくる子どもがいたが，どう対応したらよいかわからず困った.
・手遊びを１回しかしなかったため，子どもも保護者ももう少し遊びたかったという思いが残っていたように思う．手遊びは最低でも３回ほど繰り返そうと思った.
・長いすを机代わりに使ったが，新聞紙で包まなかったため，子どもがペンを使ったときに椅子が汚れてしまった．次回からはあらかじめ新聞紙で包んでおくなど対応策をとっておかなくてはならないと感じた.
・制作中は自分の好きな色のシールを楽しんで貼るようすがみられてよかった.
・制作終了後，そのまま活動が終わってしまったが，作った作品をみんなで紹介したり，音楽に合わせてゆらして遊んだりするなど，もう一工夫するとよかった.

第６回　平成23年６月１日（水）
・不織布を使ったいないいないばあ遊びでは，終わるタイミングを決めていなかったため，最後のけじめがなかなかつけられずだらだらと続いてしまった．次回からは，終わるタイミングもきちんと決めておこうと思った.

第７回　平成23年６月８日（水）
※　人形劇鑑賞のため，ふれあい遊びは休み

第８回　平成23年６月15日（水）（３年生）
・緊張して前でうまく話せなかった.
・実際に前に立ってみると，思うように言葉がでてこなかったり，大きな声で歌えなかったりと，うまくいかないことが多かった.
・ピアノがゆっくりで落ち着いて歌いやすい速さだったので，親子がゆったりとした気持ちで取り組むことができた.
・子どもが自分の遊びたいおもちゃをほかの友だちも使いたいときに，「ダメ」といって一人占めしようとしたとき，どうしていいかわからず戸惑った.
・子どもたちが楽しそうに笑ってくれていて，とてもうれしかった.

第９回　平成23年６月22日（水）（３年生）

・ふれあい遊び「森のくまさん」の中で，クマに扮した学生が子どもたちに「一緒に遊ぼう」と声をかけて時に，「いや！」と応えた２歳男児が，何度も遊びを繰り返す中で心がほぐれたのか最後にもう一度学生が「一緒に遊ぼう」と呼びかけたときには「いいよ！」と言ってくれてとてもうれしかった.

・ふれあい遊びのなかで，保育室のざわめきに学生の声が混じってしまうため，はっきりとした大きな声で話す必要があると感じた.

第10回　平成23年６月29日（水）（３年生）

・自分たちのふれあい遊びの様子を，２年生や他の３年生も見学に来ていてとても緊張した.

・自分たちが作ったバスのハンドルを配ると子どもたちはとてもうれしそうな顔をして遊んでくれて，終わってからもハンドルを持って遊ぶ姿がみられてうれしかった.

・学生のふれあい遊びでは，子どもが親にぎゅっとされると，とてもうれしそうな表情をみせた.

・保護者の中にどう入っていけばよいか迷った.

第11回　平成23年７月６日（水）　七夕あそび

・参加者が多く，声が通りにくくて大変だった.

・ざわざわした中でも，ピアノを弾いたり絵をみせたりすると，子どもがはっと集中して遊びに入り込む姿がみられた.

第12回　平成23年７月13日（水）　水遊び

・「はじまるよ」の手遊びをすると，子どもがこちらを見て集中し，次の遊びにすっと入っていくことができた.「始まりの合図」は大事だと思った.

・前においてあったブロックに座りにきたNちゃんが，そこに居たい様子だったので，前で一緒に活動を楽しんだら，満足そうにしていてよかったと思う.

・「うちわシアター」の中で，焼き魚が出来上がる場面で，子どもたちに焼けた魚を配る真似をしたら，おいしそうに食べる真似をしてくれてとてもうれしかった.

第13回　平成23年７月27日（水）

・自分では大きな声で話しているつもりだったが，思ったより声が響かず，小さい声の時には後ろまで届いていないことがわかった.

・手遊びでは，緊張のためだんだんうたのスピードがあがり安定しなかった.

・ペープサートに興味を持ち触りにきた子どもの興味を認め，子どもにペープサートを持たせて前で一緒に楽しむことができてよかった.

・制作遊び「花火を作ろう」では，最初にみんなで作った花火の作品を壁にはって飾りつけると，保護者から歓声があがって写真を撮っている方もみえ，とてもうれしかった．保護者にとって，子どもの作品が飾ってもらえるのはとてもうれしいことなのだと感じた．

（2）春学期の反省会まとめ

①　保護者への接し方の戸惑いについて

保護者にどう接してよいかわからず戸惑ったという声が多い．教員からは初めての保護者と接するときは，子どもの年齢を尋ねたり，子どもの好きな食べ物を尋ねたりするようにして，そこから少しずつ話を広げていくとよいなどのアドバイスをした．以後徐々に話せるようになっている．また，何度も参加する保護者とは顔見知りになって，保護者のほうも慣れ，だんだんといろいろな話ができるようになっている．

②　ふれあい遊びの最中に歩き回るなどする子どもに対する指導について

ふれあい遊びをする中で，ほかの遊びをしたくて歩き回ってしまう子どもに対してどう対応してよいか，前でみせているペープサートや絵本，ピアノに興味を持って触りに来てしまう子どもにどう対応すればよいか悩んだとういう声が多くきかれた．教員からは１・２歳児を中心とした子育て支援活動では当然の姿であると伝えた．４年生は１度目の担当の際に経験し，また副担当の時に同様の場面にも出会っている．反省会で対応法を聞き，子どもの興味を認めながら子どもと前で一緒に遊ぶようにし，活動が終わってからも十分触らせてやるようにするなどと，反省を生かす様子がみられた．３年生については，今後の実習などで生かすことになる．

③　ふれあい遊び指導の改善について

同じ遊びを何度も繰り返すことで，子どもが安心して遊べ，保護者も遊びを覚えられる．歌詞の一部だけを変えたり，スピードを変えたりしながら同じ遊びを繰り返すようになった．

最初は床に座って保護者や子どもと同じ目線で活動をしようとしていたが，

参加人数が多いと後ろのほうまで見本が見えないなどの問題点が浮かび，臨機応変に椅子に座ったり立ったりして見本を見せるようになった．

ふれあい遊びの様子を撮影したビデオを観て反省会をする中で，自分たちの行動や発言，子どもの様子を客観的にみることができた．自分でやっているだけでは気づくことができなかった点をみつけることができ，よかったという声を聞けた．ビデオによる反省は効果的である．

（３）秋学期の取り組み

秋学期は12月14日までに10回の取り組みを行った．以下は反省会で学生が述べた内容である．

平成23年10月５日（水）

・久しぶりで感覚が戻らなかった．
・「パンダ，うさぎ，コアラ」の歌遊びの応用をしようと思ったが練習をしていなかったのでうまくいかなかった．臨機応変に対応できるかどうかで子どもの楽しさ度も変わってくると思う．
・練習がいかに大事かということがよくわかった．
・様々な年齢の子どもがいるので，みんなが楽しいと思えるようにすることが難しい．

平成23年10月12日（水）

・ふれあい遊びが始まる前，ざわついていたが，ピアノを弾き始めると子どもが落ち着いてできてよかったと思う．
・ふれあい遊びの１つ１つの遊びの始まりと終わりがはっきりしなかった．また，その場の雰囲気に合わせた言葉がけができなかったので，できるようになりたいと思った．
・子どもたちが夏休みの間にだいぶ成長し，以前に比べてリズムに乗れる子や歌を歌いながら遊びに参加できる子どもがでてきてうれしかったとともに，子どもの成長の速さに驚いた．
・砂場遊びをしている子どもの中に，砂場遊びが初めての子どももいて，どう遊ばせたらよいか戸惑った．

平成23年10月19日（水）

・子どもにとって砂場は楽しい一方で，砂を口に入れようとするなど危険も伴うので，保育者や保護者がよく注意してみていないといけないと感じた．
・制作遊びの中で，どんぐりの帽子の部分にシールを貼り，顔の部分にペンで目，鼻，

口を描くということであったが，子どもの中には，帽子の部分をペンで塗りたい子や，シールの上に重ねてもう一つシールを貼りたいと思う子どももいた．自分のしたいように作品作りができることで，満足する様子が見られた．大人のねらいと子どもの行動にズレが生じていても，「違うよ」と言ってやめさせるのではなく，保育者や保護者は，子どものしたいようにさせてやることも大事だと感じた．

・０歳児がきらきらしたシールに興味を持つ様子がみられ，まだ自分で貼ることはできないが，保護者と一緒に楽しむことができた．

平成23年10月26日（水）

・人数が多い中での制作は大変で難しく，自分があたふたしてしまって全体の動きをみることができなかった．
・ホワイトボードに歌詞を書いておくと，２回目には保護者も歌ってくれよかったと思った．
・きょうだいで参加した子どもの中に，保護者が下の子に手がかかってしまうため，上の子がぽつんと一人で遊んでいる姿が見られたが，学生が声をかけ一緒に遊ぶうちに楽しそうな顔になっていったので，学生の側から積極的に声をかけていくことが大事だと思った．
・少しやんちゃな２歳児と思っていたが一緒に外で砂遊びをしている中で，学生が「寒い！」というと，パーカーのフードをかぶせてくれたり，「おうち（ログハウス）のなか，はいっとき！」と言ってくれたりするなどやさしい面がみられた．子どもの一面を見るだけではなく，いろんな角度でみなければいけないなと感じた．

平成23年11月２日（水）

・小さな子どもにとって，カスタネットはカチカチとたたくことが難しく，たたいたら簡単に音が出る太鼓の数を多くしておけばよかったと思う．
・４月から見てきた子どもたちが成長し，いろんなことが出来るようになってきた．そのことを保護者と共感することで新たに話題が生まれる．
・小学校では，「始めましょう」というような号令があるが，０，１，２歳にとっては，音楽が合図となり，年齢によって活動の入り方が全然違うと感じた．
・初めは楽器に興味がなかった子も，ピアノ伴奏を聞くと興味を持ち，喜んで楽器を鳴らす姿がみられてうれしかった．

平成23年11月９日（水）

・制作遊びでは，子どもたちが「顔」の画用紙に絵を描いたりシールを貼ったりと思い思いに楽しむ様子が見られたが，この年齢の子どもたちに絵を描かせるには画用紙が小さかったように感じ，もうすこし画用紙を大きく切ればよかったと思った．

・「バスごっこ」のふれあい遊びが楽しく，ふれあい遊び終了後も「やりたい！」という声がかかり，ＣＤをかけて，リズムに合わせて楽しむ様子がみられてうれしかった．
・以前に参加した保護者から，「以前参加した際にやった『バスごっこ』を子どもが気に入ってまたやりたいと思って参加した．そのときは楽譜をもらったので，家で見ながら遊ぶことができた」という声が聞かれたため，その日に遊んだふれあい遊びの楽譜などをプリントにして配布すると家での遊びにもつながっていくということがよく分かった．
・ブロック遊びをしていた３歳男児が，家にみたてたブロックを「つなみがくるぞ，いえがたおれるぞー」といいながら手に持ったブロックで倒す姿がみられ，どう声をかけてよいかわからず戸惑った．

平成23年11月16日（水）
・地元の新聞に（子育て支援“ぴよぴよ”の記事が）掲載されたからか，初めての参加者が多くみられた．また，「ベビーマッサージ」ということで，０歳児の参加者が多かった．
・講師の先生方は，言葉もはっきりゆっくり，動きも大きくゆったりとしていてわかりやすかった．遊びの流れもうまく作ってみえてさすがだと感じた．
・ベビーマッサージ中の親子の様子を見ている中で，保護者が子どものおしりをさすってやると，子どもがお尻をよじらせて気持ちよさそうにしている様子がみられた．友だち同士でやっても気持ち良くリラックスできたので，現場にいったら取り入れてみたいと思った．
・ピアノの音があると，子どもが楽しそうに遊ぶ姿がみられ，音の力はすごいなと感じた．
・ふれあい遊びの用意をしている最中にバンダナをどこにやったのかわからなくなってしまい，せっかく用意したのに使えなくて残念だった．

平成23年11月30日（水）
・学生によるふれあい遊びでは，初めてギターを取りいれたため，子どもたちにとって新鮮だったのか，後ろの方にいた子どもたちが伸びをして覗き込む姿がみられた．同じ遊びを繰り返すと，保護者がリズムにあわせて自然に手拍子をしてくれた．新しいアイディアを取り入れる企画力というのも保育者に求められる資質の１つである．
・学生が，「たまごの中から何がうまれるかな」と期待を持たせて声をかけながら卵の殻をパカッとあけると，子どもたちからは歓声があがっていた．
・ピアノを弾いていたが，練習とは違って躓くところが多く，申し訳ない気持ちでいっぱいになった．一方で，躓いて止まってしまっても，他のメンバーがしっかり歌ってフォローをしてくれたので遊びは続けることができたので良かったと思う．保育にはフォローもしあえるチームワークも必要である．

平成23年12月７日（水）

・制作遊びをしたが，活動の流れをあまりイメージできておらず，机を出したり片づけたり，壁に飾ったりということに気をとられ，最後のほうがグダグダになってしまったので，もっと計画性をもって活動しなくてはいけないなと感じた．
・制作遊びの時に，何をどう作るのかという説明をする前に，先に制作用紙やペンなどを配ってしまったので，子どもがペンや紙に興味をもって遊び始めてしまった．保護者も子どもの遊びを止めるのに必死で，作り方の説明を落ち着いて聞くことができず，制作開始後もどうしていいかわからない様子がみられた．制作遊びをするときには，配布をする前に一通り説明をしてから活動に入った方がよいと感じた．
・参加人数が多くて，制作活動をする時にも各テーブルに大人数がぎゅっと固まって活動をしなくてはならず，かわいそうだった．ゴミも床に散乱して，なんだかぐちゃぐちゃしていたように感じた．「とんとんとん」の手遊びは，１，２歳ぐらいの子どもだと自分でトントンと手を叩くことができて，とても楽しそうに遊んでいた．
・子ども同士のおもちゃの取り合い（わなげ・犬のぬいぐるみ）がみられ，それぞれの思いを聞きながら対応したが，どちらの言い分もよくわかり，どちらも悪くないと感じたが，どう仲裁してよいか戸惑いを感じた．現場に出た時には日常茶飯事だと思うが，そのようなときに対応をするのがとても難しいと感じた．

平成23年12月14日（水）

・ふれあい遊びの時間にハンドベルを演奏したが，子どもたちがハンドベルに興味を持って触りに来るだろうと予想をしていたにもかかわらず，子どもたちは触りに来ることなくじっと静かに演奏を聴いてくれたことに驚いたとともに，音楽の力はすごいと感じた（図６）．
・ハンドベルをするにあたって，準備や練習が大変だったけれど，みんなが笑顔になってうれしかった．
・子どもたちにたまごマラカスを配り，子どもたちがハンドベルの演奏に合わせて音を

（図６）　クリスマス会の様子

鳴らしてくれて楽しかったしうれしかったが，終了後にマラカスを回収する際に，「プレゼントじゃないの？」という空気が流れ，少し気まずくなってしまったので，最初に「後で回収します」ということを伝えておけばよかったと思った．

・サンタクロースとトナカイの登場に驚き，怖がって泣く子どもも多くみられたが，泣きながらも興味は示し，少しずつ近づこうとする子どもの姿も見られた．保護者の励ましもあり，サンタクロースの手から子どもに直接プレゼントを渡すことができてよかった．

・サンタクロースの登場の仕方に工夫（鈴の音を鳴らし，雰囲気を作った後，トナカイが先に前のドアから登場し，その後サンタクロースは後ろのドアから登場した）がみられ，保護者から大きな歓声が上がった．登場の仕方を少し変えるだけでこんなにも盛り上がり方が変わるものなのだと感じた．

（４）秋学期反省会のまとめ

①　活動の準備について

「練習がいかに大事かということを実感した．」「ピアノ伴奏をしたが，練習ではうまくできていても，本番になると緊張してうまくいかず，もっと練習しておけばよかったと感じた．」「全体の流れをあまり把握しないまま活動したため，担当者同士の意思疎通がうまくいかなかった」などのように，事前準備・打ち合わせを綿密に行う必要性があることを再確認している．

どのグループも本番までに何度か練習して内容を練り，本番に臨んでいる．一部のグループではメンバー全員が集まって練習することなく本番を迎え，せっかくの活動がうまくいかず，打ち合わせの不十分さを反省していた．一生懸命取り組んだ活動で，子どもたちの楽しそうな姿をみると，やってよかったという大きな充実感，満足感を得ている．

②　制作活動への取り組みについて

「大人数での制作は，全員の動きに目が行き届かず大変だった．」「制作遊びの時に，何をどのようにするかということを説明しないまま先にペンなどを配布してしまい，子どもが遊び始めてしまって説明がうまくいかなかった．」「制作遊びの時には，どこで活動を終わりにするのかなどをきちんと決めておかないと，片づけや活動の締めが出来なくなる．」「異年齢の子どもが集まっている

ので，みんなが楽しめるような活動にするのが難しい」など制作に関する困難さを述べるものが目立った．

小さな子どもの制作活動は発達面から考えても困難性を伴うものであり，技能差の表れる活動である．全体指導には相当の準備と配慮が必要である．子育て支援活動であったから，保護者の協力を得て行うことができているということを理解しなければならない．行うのであれば簡単な活動が望ましい．今回取り組んだ“花火”“かたつむり”“どんぐり”“クリスマス”などの制作は単純であり，壁面飾りに生かすことができた．子ども・保護者は共に自分たちの作品が飾られることへの満足感を得るものであった．

③　子どもとの関わりについて

“津波を模した遊び”，“ぬいぐるみの取り合い”，“初めての砂場遊び”などの対応に戸惑う学生の姿が見られた．子どもの気になる言動や喧嘩の場面に遭遇し，どう対応したらよいか，終了後の反省会で考え合うことで，次の回以降に反省を生かした関わりができるようになっている．

また「友達に手を出してしまうなどの行動をみて，つい叱ってしまいがちなことが多いが，その行動の裏には，友達に何かしてあげたいという優しい気持ちがあることもあるということがわかり，その子の一面を見るのではなく，いろんな角度でみていかなければいけないと感じた.」「少し前まで出来なかったことがいつの間にかできるようになっていて，子どもの成長ははやいと感じた」など，子どもの姿を見つめる態度も身についてきた．

春学期から子どもたちと関わる中で，子どもたちの成長を見つめることができ，保護者と共に子どもの成長を喜ぶことができている．また，一人ひとりの子どもとじっくりと関わるなかで，その子のよさに気づき，認めようとする姿がみられる．

④　保育の準備，方法について

「ピアノの音があると，子どもが楽しそうに遊ぶ姿がみられ，音の力はすごいなと感じた.」「ホワイトボードに歌詞を書いておくと，保護者も歌うことが

できてよかった」など，ふれあい遊びの中で，ピアノを効果的に活用し，ペープサートや動物の面，人形などを使って子どもや保護者の関心をひく方法も分かってきた．ふれあい遊びのプリント（歌や動きが示されたもの）を配布して家でも遊べる工夫もして喜ばれている．

⑤　子ども・保護者からの期待について

学生は子育て支援活動に子どもと保護者が大きな期待を寄せていることを実感している．次の言葉から担当学生の充実感が伝わってくる．「保護者と話をする中で，“ぴよぴよ”に来ることを楽しみにしている，と言われてとてもうれしかった．信頼を裏切らないよう私たちも頑張らないといけないと思った．」「子どもたちが夏休みの間にだいぶ成長し，以前に比べてリズムに乗れる子や歌を歌いながら遊びに参加できる子どもがでてきてうれしかった．子どもの成長の速さに驚いた．」「ふれあい遊びをするにあたって，準備や練習が大変だったけれど，みんなが笑顔になってうれしかった」とある．学生はこの充実感をエネルギーにして取り組んでいるようにも見える．

６．教員による子育て相談の状況

12月までの実施で14回の相談日を設けた．

教員が相談者として子育て支援活動に臨む場合はプロフィールを黒板に掲げ，紹介した．担当教員の配置が無い場合は藤村が対応した．相談件数は合計20件であった．相談は４月（４件），５月（４件），６月（７件），７月（４件），11月（１件）となっていて，前半に集中した．参加当初に相談することによって相談者の疑問・不安が解消されたことが伺える．また，数値としては表れていないが，継続して自主的に参加する教員と食事・栄養・離乳などについて会話することで，自然なアドバイスを得る様子も見られた．当然保護者相互でも保護者は子育てに関して情報交換，教え合いを行い，安心の場にしている．

記録として残した相談内容は以下のとおりである（表１）．子育てに関すること，離乳食･乳離れに関すること，健康に関することが主である．震災に関することは本年度の特徴である．後に内容ごとに事例を１件掲げて紹介する．

表１　相談の内容

	内　　容	件数
1	子育てに関すること	8
2	離乳食に関すること	4
3	健康に関すること	4
4	乳離れに関すること	2
5	震災に関すること	2
	計	20

（1）「子育てに関すること」

子ども同士のおもちゃの取り合いの際，自分の子どもを強く叱ったところ，なかなか泣き止まなくて困った.

【相談対応１】　A教員

２歳児の男児が，ままごとでひとり機嫌よく遊んでいたところ，別の女児がやって来て男児が遊んでいたおもちゃで遊ぼうとした．男の子は今まで自分が遊んでいたおもちゃを自分のものだと思い，女児からおもちゃを取り返したところ，女児が泣き出した．男児の母親は，女児からおもちゃを取り返した男児を叱ったところ，男児は激しく泣き出した．男児の母親は，子どもが発達段階において自己中心的で，けんかはつきものであることをわかっているようであるが，他の保護者の手前少しきつくしないではいられないようなところもあったようだ．子どもはけんかを通して学んでいくこともあるので，物などで乱暴しない限りはあまり強く叱らないでやさしく子どもの気持ちを代弁するくらいにしてはどうかと話した.

（2）「離乳食に関すること」

１歳の男児は，以前はトマトが大好きだったのに，最近急に食べなくなったうえ，口にすると嘔吐するようになった．どうすれば以前みたいに食べられるようになるだろうか.

【相談対応２】　B教員

１歳男児は，以前はトマトが大好きで喜んで食べていたが，最近になって急に食べなくなり，さらには口に入れると嘔吐するようになった，母親は，大好きだったトマトを急に食べなくなった男児を心配し，男児がおいしく食べられるようトマトをゼリーにしたり，ジュースにしたりと工夫して調理しているが，やはり食べられないということであった．小さい時に好きだったものは，ある一定の時間をおいたらまた食べられるようになることが多いことを伝え，それよりも食べられないときに無理に食べさせようとすると，食べること自体がいやになってしまう可能性があるため，今は無理に食べさせることはやめるよう伝えるとともに，長い目で見守るよう声をかけた．

（３）「健康に関すること」

女児の肌が赤くなりかゆそうである．病院へ連れていったほうがよいか．

【相談対応３】　C教員

２歳の女児は，アトピー体質である．最近，暑くなってきたためかお尻が赤くなりかゆそうにしている．病院に連れて行った方がよいだろうかということであった．本児は，アトピー体質であるということもあり，他の子どもと比べて肌が敏感である．最近暑くなってきたため，汗や，外気温の変化によって肌が反応しているのだろうと話し，汗をかいたらこまめに着替えをさせたり，身体をふいたりして清潔にするよう伝えた．

（４）「乳離れに関すること」

１歳３カ月の妹は寝る前になると，母乳をほしがるしぐさを見せるため，夜のみ母乳を与えている．２歳の姉は，母親の下の子の妊娠に伴い１歳になる前に卒乳している．１歳を過ぎても乳を飲みたがる妹に，いつまで母乳を与え続けてよいのだろうか．

【相談対応４】　B教員

１歳を過ぎると，子どもは知恵がついてきて，母親の表情からねだれば母乳をもらえるタイミングを読み取るようになる．子どもの体調や機嫌が悪い時にやめさせようとすると逆にやめにくくなることもあるため，子どもの体調や機嫌がよい元気な時にやめさせるよう伝える．また，お乳に子どもの好きなキャラクターの絵を描いて，子どもにも「ママのお乳はもう自分のものではない」と伝わるようにするのもよいと話す．

（5）「震災に関すること」

震災の影響で父親と離れての避難生活が始まり，３歳児の姉が不安定になり地震・津波の言葉に敏感に反応し怖がるようになった．また，弟が飲んでいる母乳を自分も飲みたがるようになり飲み始めたが，このまま飲ませていてもよいか．

【相談対応５】　D教員

千葉県在住で東日本大震災の被災により，現在母子３人で愛知県に避難している．本日は母親の実家がある伊勢へ一週間の帰省中で，従姉妹と一緒に来校した．遊んでいる様子を見ると不安が強い様子は見られず，母親のそばを離れられないこともなく滑り台や大型積み木等で遊んでいた．弟が母乳を飲んだ後すぐ自分もほしがり飲む姿が見られた．

母親と話していると母親自身が現在の生活に不安を感じている様子であった．女児の不安（地震・津波の怖さや父親不在の寂しさ）を母親も一緒に共有し，できるだけ肌と肌のふれあいを多くもっていくのもよいことであると話す．また，ひざに抱っこして一緒に絵本を読んだり歌を歌ったりする時間を持つのもいいのではないかと話す．母乳を飲み始めたことに対しては本人が納得するまでこのまま続けていっても問題はないと伝える．

７．その他の教育・研究活動への取り組み

（1）教員の教育研究活動

「子育て支援活動による学生・子ども・保護者の関係性の育ち」については別途日本保育学会第65回大会（平成24年５月４～５日開催）で発表する．テーマは「子ども・学生・保護者の関係性の育ち― 学生による子育て支援 ―」である．

本学における子育て支援活動は子ども・保護者の遊び・相談の場として提供しているだけではなく，学生の学びの場であり，教員の子ども・子育て研究の重要な場である．

（2）教育研究基礎演習（２年生）

教育学部学生は乳児および幼児の育ちの特徴を理解しておくことが望ましい．教育研究基礎演習で，約240人が11グループに分かれて子育て支援活動を参観した（一部のグループは参観できないこともあった）．その後子どもの実態，保護者の願い，保育のあり方などについて話し合った．今後教員を目指す

学生の子ども観・教育観を広げることにつながると考える．

演習当日に学生が担当する子育て支援活動の組まれている日には原則として観察に入った．観察時間は20～30分である．その感想，および参観後の内容については後日研究としてまとめる．

また，12月～１月にかけて３回実施する“テーマ別演習”については13人の学生が２グループに別れ保育実習室の壁面飾りの制作と，親子ふれあい遊びの企画・実践に取り組む．子育て支援活動が教育学部学生の幼児教育・保育・子育て支援に関する学びの基礎になっている．

（３）教育研究演習（３年生）

幼児教育ゼミ３年生18名の学びの場として，３回グループに分かれて子育て支援活動を各自１回体験した．担当した日は６月15，22，29日であった．当日担当をしない学生は，子どもの様子を観察記録に表す活動に取り組んだ．後の演習で当日の保育を振り返ると共に，記録のとり方の検討を行った．

（４）卒業研究（４年生）

４年幼児教育ゼミ生は各自の卒論で必要とするデータを保育所，幼稚園，子育て支援センター，学校，地域の保護者などから得る．丁寧な手続きをとって，観察・実践・聞き取り・アンケートなどに取り組む．５人の４年生が本年子育て支援活動の場で，子どもの遊び観察，保護者への聞き取り調査，アンケート依頼を行った．観察内容は，子どもの遊び，子どもと保護者の関わり，子どもと絵本であった．また，聞き取り調査は子育てについて，アンケート調査は食品の取り扱いについてであった．

（５）子育て支援活動資料作成

学生が取り組んだ“親子ふれあい遊び・手遊び・リズム遊び”を収めた子育て支援活動に役立つ資料をまとめた．別途「健康（指導法）」で取り組んだ内容にも共通するので，併せて500部作成した．次年度以降に子育て支援活動で活用する予定である．

8．保護者の意見

参加した保護者に感想・意見をアンケートで求めたところ以下のような記述があった．これによれば①学生が子ども･保護者に優しく関わるので好感がもてること，②施設･設備･遊具が充実していて安心して過ごせること，③学生の企画する活動が楽しみであることなどをあげている．また率直な提案ももらうことができ，今後の参考になる．

別途，本学の子育て支援活動へ参加したきっかけ，参加回数，参加理由，好きな活動，子育て相談についても聞いているが，ここでは結果の報告を割愛する．

・学生が生き生きしていてこちらもパワーをもらっている．毎回ふれあい遊びはいろいろなことをして頂き親子で楽しめる．片づけの場所に，ここはこういうものを入れると写真や絵をかいてもらってあるとたすかるかも！
・学生さんの手遊びを子供がすごくよろこんでしています．家でも同じ手遊びをするとニコニコです．いつもありがとうございます．
・学生さんや先生方がとても優しくいつも笑顔で接してくれるので，私も嬉しいです．また来たいなと思います．息子も学生さんにとてもなじんでいるのでありがたいです．要望ですが，学生さんたちも名前がわかるようにカンタンな名札など付けてもらえるとありがたいです．息子に～先生のとこ行っておいでとか，～先生にあいさつしてとか言いやすいので．
・みなさん優しく接してくれるのがうれしいです．いつもありがとうございます．
・初めて来ましたが，キレイでおもちゃがたくさんあって，また来たいです
・雰囲気もよく，駐車場もあり利用しやすい．おもちゃもきれいで，子どもも喜んでいる．
・学生さんにとっても親子にとってもいい体験だと思うので今後もぜひ続けてください．
・スタッフが大勢．部屋がきれい．広い．おもちゃが充実．ふれあい遊びしてくれる．無料．お友達が，親，子，共にできる．
・設備が充実しているところ．お姉さんたちと遊ぶのが好きなようで，教えてもらった歌を家でも口ずさんでいます
・ぴよぴよが大好きで毎週楽しみにしています．なので，夏休みなど長期間ない時はとてもさみしがっていました．休みの時も1カ月に1回くらいあると助かります．
・ふれあい遊びとかしてもらえるところを知らなかったので，近くで毎週遊んでもらえるので有難いです．ありがとうございます．
・この春からもぴよぴよ続けて下さい．
・安心して子供を遊ばせることができるし，学生さんたちの目がやさしくありがたく

思っています．いつもありがとうございます．
・子どもが２人いるので，とても助かります．若いお姉さん，お兄さんにあそんでもらえてすごく楽しそうです．
・施設が新しい
・０歳なので，制作はまだ難しい．

９．まとめと今後への課題

（１）学生の学びと展望

本年度実施を計画した28回の子育て支援活動「ぴよぴよ」はほぼ計画通りに実施することができた．担当学生の熱心な取り組みの成果が随所に現れた．学生には保育・教育実習体験はあるものの，子育て支援活動という新たな領域への挑戦には戸惑いも多かった．それを支えたのは担当グループの協働であり，参加する子ども・保護者の喜びの姿であった．

我々教員は子育て支援を行う学生の姿を継続して見てくるうちに，秋学期中程から，しばしば“保育者”の支援だと実感するようになった．自由な遊びの中で細やかな配慮をしながら子どもへ関わる様子，子どもの興味を引き出すために工夫した教材，親子で楽しくふれあうことのできる新しいセンスの活動・・・机上の学びだけでは得られない実践的な学びを得た．伝統ある本学の小・中学校教員養成に加えて，幼児教育・保育・子育て支援・児童福祉領域の学びの充実につながる活動の一つに位置づけられるものとなった．

（２）教育研究活動への寄与

本学は附属の保育・幼児教育施設を有していない．本学で行う子育て支援活動「ぴよぴよ」は実際に子ども・保護者と交流することができ，２・３・４年生それぞれに必要な学びを提供する．子育て支援活動は授業ではないが，重要な教育活動の一環として位置づけることができる．卒業研究のフィールドとして活用することも，教員の研究資料を得る場にもなった．今後も体制を整えながら継続することが求められる．

（3）大学の地域貢献活動としての意義

少子化社会，子育て困難時代において子育て支援活動はその技術と能力を持つ保育・教育現場が応えなければならない課題の一つである．本学には保育・幼児教育を学ぶ学生がいて，指導する教員がいる．このたび十分な施設・設備を整えた保育実習室が完成した．小さな子をもつ地域の保護者・住民は大学の地域貢献を歓迎し，期待を寄せている．継続すべき事業として無理なく，充実を目指して取り組みたい．

（4）今後への課題

利用者の安全への配慮は欠かせない．賠償保険への加入などはすでに実施しているが，今後利用規定を明文化させて，我々の十分な配慮と保護者の見守りの下で充実した活動になるように取り組む．

本年度は三重県からの助成が得られた．引き続き運営に必要な原資を確保して管理運営体制を整えることを考える．

注　釈

（注１）教育研究基礎演習，言葉（指導法），健康（指導法），環境（指導法），人間関係（指導法）以上２年生，教育研究演習，保育指導の方法，以上３年生で「模擬保育」「環境構成」「制作活動」「絵本･紙芝居･パネルシアター」「手遊び・うた遊び･リズム遊び」「室内遊びの実践」などに取り組む．

（注２）三重県健康福祉部が管轄する平成23年度「安心こども基金（地域子育て創生事業）」の助成を得て，ロッカー，教材収納棚，授乳コーナー，テラス安全カバー，フェンス，砂場，ログハウス，滑り台，物置の設置を行った．また，各種遊具，絵本，オムツ交換台，簡易プール，テレビ，紙折り機，組み機，製本機等の用品購入を行った．さらに本年は人形劇，ふれあい遊び（以上外部講師），子育て支援活動，相談等に関わったスタッフ（学生を含む）手当も若干拠出した．

（注３）三重県健康福祉部が管轄する平成23年度「保育士再チャレンジ支援事業」を受任して，潜在保育士の就業支援に向けた意向調査と再就職支援研

修に取り組んだ．本事業を推進するために担当スタッフを２名配置することができた．１名は主に実務を取り扱う業務として教職支援担当部署に，１名は保育（子育て支援）を取り扱う業務として保育実習室に配置した．保育担当者は保育士資格，幼稚園教諭一種免許状，小学校教諭一種免許状を有する本学卒業生である．

（注４）相談者として臨んだ教員は萩吉康教授（児童家庭福祉），檜垣博子教授（保育学），吉田直樹教授（発達心理学），片山靖富准教授（応用健康医学），長尾陽子准教授（栄養学），吉田明弘准教授（児童福祉），野々垣明子講師（教育哲学），田口（保育指導）であった．上記相談教員の担当しない日は藤村（保育実習支援）が適宜相談に応じた．

謝　辞

子育て支援活動を展開するにあたり多くの人の協力を得た．

学びの一環とはいえ，毎回の子育て支援に熱心に取り組んだ学生に感謝する．当日までの準備，駐車場案内，受付等よく配慮してくれた．

相談担当の教員，自主的に参加して子どもの世話や保護者の相談に応じた教員，実務的な業務にあたった教職支援担当，数々の施設・備品を整えた財務部（管財課，会計課）の職員に感謝する．何より利用しやすい保育実習室を設置した大学に，また平成23年度に多大な補助をしてもらった三重県に礼を述べる．

最後になったが，保育実習室の管理ならびに学生の活動支援・記録に努めた教職支援担当（保育実習室配置）の土田靖子さんに感謝する．